

第9回 校長会議あいさつ

R2.11.20 稲垣

足早に近づいて来る冬の気配とともに、本市においても感染の拡大が心配されています。今のところ、市内各校とも行事を変更しながら進めてきていますが、今後はさらに複雑な状況が見込まれます。風邪とインフルエンザとコロナが混在する中で、学校では、予防と対応に努めなくてはなりません。また、校内で感染者が発生した場合の配慮については、教職員は言うまでもなく、全校児童生徒、全保護者、地域が、みんなで心をつなげて風評被害を防いでいく心構えをもちたいものです。

本日は、二点についてお話しします。

一点目は学校訪問の所感からです。感染対策の一環として、子どもたちが全員前を向いた一斉教授型の授業になりがちなことにはやむをえません。子どもたちが互いの考えを深め合う場面は、意識して設定する必要があります。また、教師主導のみに陥らないように、子どもたちの受け止め方やモチベーションへの配慮を大切にしなければなりません。各校とも年間計画の遅れは解消できる見通しが立っています。子どもの側に立った指導を心掛けるように周知をお願いします。

二点目は、ICT教育の推進（GIGAスクール構想）についてです。一般的には、児童生徒がコンピュータを使用していると、その行動そのものに新しい教育（新しい教育価値＝新たな能力や資質の獲得）があるように捉えられがちですが、そういうことではありません。学校教育で児童生徒が身につけるべき能力や資質は、現行学習指導要領に述べられている通りで急変したわけではありません。ICT教育によってもたらされる能力も学習指導要領に総括されています。ICTの活用は、学習指導要領で示されている能力を身につけさせるための手立ての一つです。しかしながら、ICTの導入には、学習の効率化と個別対応化という面で、大きな教育効果が期待されます。例えば、主に知識理解を中心とする学習において、学習に役立つ情報が迅速かつ大量に送受信できたり、児童生徒個々の理解度に応じた学習過程が提供されるなどです。

一方、プログラミング教育の価値としては、問題解決力や論理的な思考力があげられますが、これらは他の教育活動によっても育てることが可能であり、プログラミング活動によってのみ育てられる能力ではありません。また、メディアなどでは、コンピュータが自在に使えることやコーディング能力が注目されがちですが、それらは必要な能力とはいえ、教育的価値という面からは副次的なものとして位置付けるべきと考えられます。

ICT教育の教材については、碧海信用金庫様からご寄付もいただきました。来年度から全学年でのタブレットの活用が始まりますが、子どもたちに着実に力をつけるため、目標と方法が混同されることのないように授業づくりを進めていきたいと思っております。